

外国語科における授業づくりのポイント

1 外国語科における主眼について

外国語科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つは、内容【知識及び技能】の観点をしぼり、各言語活動における【思考力、判断力、表現力等】と関連させて書きます。二つは、「言語活動を行う目的」「場面」「状況等に応じた工夫」の三つの要素を具体化して書きます。

○主眼の作り方の例

- 主眼 1 ～（題材）について、～（言語材料）を用いて、～（自分の考えや気持ちなど）を、伝え合うことができるようにする。
 2 ～（場面）において、～（目的）するために、～（状況に応じた工夫）してやり取りすることができるようにする。

【第6学年 単元「Where do you want to go? (7/8時)」の主眼の例】

【(2) ア：解説書】P.99
 ア 身近で簡単な事柄について①、伝えようとする内容を整理した上で②、簡単な語句や基本的な表現を用いて③、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。
 ①事柄→おすすめしたい国の魅力
 ②どんな魅力か ③言語材料→助動詞“can”



【(ア)文 b肯定、否定の平叙文：解説書】P.93
 肯定、否定の平叙文を指導する。平叙文は、通常、事実などを伝える文であり、文末に終止符を付ける文である。
 ・肯定文の例：She can swim fast.
 ・否定文の例：I can't play the piano.
 ※ 助動詞“can”を言語活動で扱う。

- 主眼 1 おすすめしたい国の魅力について、相手に応じるために内容を整理したことを基に、“Do you like ~?”で相手の興味関心を確認し、“You can ~.”や“It's ~.”を用いて、より適切な情報を伝え合うことができるようにする。
 2 おすすめしたい国の魅力をまだ知らない友達に伝える場面において、おすすめする国に興味をもってもらうために、その国でできることを表す語句や表現を選びながら質問をしてやり取りすることができるようにする。

2 外国語科における単元指導計画について

外国語科の単元指導計画では、以下の四つの段階を大切にします。つかむ段階では、本単元のコミュニケーションの目的や場面、状況などを理解します。見通す段階では、目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てます。試す段階では、目的達成のため、言語活動を通して具体的なコミュニケーションを行います。振り返る段階では、コミュニケーションについて、言語面・内容面で自らの学習を振り返ります。

| 段階 | 内容 | 具体例（第6学年「Where do you want to go?」） |
|-------------------|--|--|
| つかむ （導入） | 単元のゴールで何のために、どのような言語活動を行うのか明確にする。 | 海外旅行に行きたい先生たちにおすすめの国を提案するために、国の魅力を伝えるというめあてを見いだす。 |
| 試す （展開） | 単元のゴールに向かってどのような英語の語句や表現が必要か思考し、慣れ親しむ。 | 行きたい国の伝え方や尋ね方、おすすめの国の魅力を伝えるための英語表現とその活用の仕方を知る。 |
| 実践する・振り返る （終末） | 繰り返し活用することにより身に付いてきた英語表現を生かし言語活動を行う。 | 中間評価やモデルを参考に実際のコミュニケーションを修正しながら、おすすめの国の魅力について伝え合う。 |
| | 実践した言語活動について自己の変容を自覚し、発展的な内容に視野を広げる。 | おすすめの国の魅力を伝え合う活動を言語面と内容面で振り返り、世界遺産へも視野を広げる。 |

3 外国語科における一単位時間の学習過程について

外国語科では、展開後段に自分なりの英語を使って自らが目的や場面、状況に応じて、相手に配慮しながらコミュニケーションを図る言語活動を位置付けることが大切です。そのために、導入で本時の言語活動をつかませ、展開前段で自分なりの表現の見通しをもたせます。そして最後に、終末で言語活動の振り返りを行い、本時のコミュニケーションの価値付けを行います。

○一単位時間の学習過程




| 段階 | 学習活動と予想される反応 | 具体的な支援 ※ICT活用 |
|----|---|---|
| 導入 | 1 前時の言語活動場面と本時の言語活動場面を比較し、めあてについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 前時の言語活動場面 ← 比較 → 本時の言語活動場面 (本時のめあて) □□について、[言語活動]しよう。 </div> | ○本時のめあてをもつことができるように、デモンストレーションや Small Talk から、既習と本時の言語活動場面を比較する場を設定する。 |
| 展開 | 2 □□について、伝えたい内容を整理し、簡単な語句や基本的な表現を用いて、～を伝え合う。 (1) 自分が伝えたい内容を明らかにして語句や表現を確認し、伝え方の工夫についての見通しをもつ。 ・自分の～な考えや気持ちを伝え合いたい。 ・～な英語表現を使って、～な伝え方をしたい。 (2) 見通しを基にコミュニケーションを図り、他者に分かりやすいように英語の語句や表現と伝え方の工夫を付加・修正・強化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分なりのコミュニケーション → 話し合う活動 → 高まったコミュニケーション ~なときは、～な英語表現で表すことで、他者と分かりやすく伝え合うことができた。 </div> | ○伝え方の工夫について見通しをもつことができるように、学習者用端末に保存している前時まで語句や表現を振り返る場面を設定する。 ○よりよい伝え方を見いだすことができるように、中間評価でモデルとなる児童のやり取りを紹介し、それを基に自分に必要な英語表現を選択して編集する場面を位置付ける。 |
| 終末 | 3 □□について伝え合ったことを振り返り、本時のやり取りをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> (本時のまとめ) △△を(工夫)すると、～することができる。 ・～な英語表現を使って伝え合った。[言語面] ・～な感想をもつことができた。[内容面] </div> | ○本時でのコミュニケーションを通じた学びを実感することができるように、学習者用端末を用いて言語面と内容面で振り返りをし、全体で共有する場面を設定する。 |

4 外国語科における ICT の活用について

外国語科では、「既習の言語活動の場面」、「英語表現や伝え方の工夫」、「振り返り」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を特に以下の三つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…前時までの言語活動で使った表現を見返し、本時場面をつかむことができるようにする。
- 編集機能…必要な英語の語句や表現を選択し、自分の表現に取り入れることができるようにする。
- 共有機能…コミュニケーションを振り返り、本時の気付きや感想を見合うことができるようにする。

○ICT の活用の具体例

| 保存機能 | 編集機能 | 共有機能 |
|--|--|---|
| 展開段階で前時までの語句や表現を見返すことで、見通しをもつことができるようにする。  | 展開段階で必要な表現を選択することで、自分の表現を付加・修正することができるようにする。  | 終末段階で振り返りを互いに見合うことで、本時の学びを実感することができるようにする。  |

